

令和元年度第40回
東京都トラック協会ドライバー・コンテスト
学科競技
問題

【出題内容】

- I 法規：問1～問40
- II 構造機能：問41～問60
- III 運転常識：問61～問80

競技上の注意

この競技は、運転者に必要な関係法規やプロとしての一般的な知識について試問するものです。出題される法令問題は、令和元年6月1日時点の現行の法令に基づき作成しています。また、この試問は、11トン・4トン・2トン・女性及びトレーラ部門共通となっています。

注意事項

- ① 問題は全部で80問です。
- ② **制限時間は60分です。**
- ③ 解答はすべて別紙の解答用紙に、「正しい」と思うものについて、解答用紙の同じ問番号の枠内に「○」印を、「誤っている」と思うものについては「×」印を下記要領により記載すること。（四肢選択式問題は「○」のみの記載でよい）なお、解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

《例》

【四肢択一問題】

【○×正誤式問題】

問	選択肢			
	1	2	3	4
1		○		
2			○	

問	答
12	○
13	×
14	×

- ④ 解答用紙には、鉛筆を使用し、誤って記載した場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ⑤ 解答用紙には必ず競技部門、受験番号、氏名を記載すること。
- ⑥ **この問題用紙は試験開始の合図があるまで開けないこと。**
- ⑦ 印刷の不鮮明なところがあれば、着座のまま静かに手を挙げて係員に尋ねること。ただし、問題の内容に触れるものには回答しない。
- ⑧ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑨ 試験開始45分経過後から退席することが出来る。退席可能時間になった際に、係員より告知を行う。退席する場合、解答用紙を壇上へ提出し、他の選手のじゃまにならないよう静かに退席すること。なお、一度退席した者については、試験時間中の再入室は認めない。
- ⑩ 終了時間については、終了5分前に係員より予告を行う。

令和元年7月6日（土）
於 東京都トラック総合会館

「いま」を支える。「みらい」をつくる。

I 法規（40問）

【4 肢択一式問題】

問1. 道路交通法に定める交差点等における通行方法についての次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

- ア 左折又は右折しようとする車両が、法令の規定により、それぞれ道路の左側端、中央又は右側端に寄ろうとして手又は方向指示器による合図をした場合においては、その後方にある車両は、いかなる場合であっても当該合図をした車両の進路の変更を妨げてはならない。
- イ 車両等は、交差点に入ろうとし、及び交差点内を通行するときは、当該交差点の状況に応じ、交差道路を通行する車両等、反対方向から進行してきて右折する車両等及び当該交差点又はその直近で道路を横断する歩行者に特に注意し、かつ、できる限り安全な速度と方法で進行しなければならない。
- ウ 車両等は、横断歩道に接近する場合には、当該横断歩道を通過する際に当該横断歩道によりその進路の前方を横断しようとする歩行者がないことが明らかな場合を除き、当該横断歩道の直前で停止することができるような速度で進行しなければならない。
- エ 車両等（優先道路を通行している車両等を除く。）は、交通整理の行なわれていない交差点に入ろうとする場合において、交差道路が優先道路であるとき、又はその通行している道路の幅員よりも交差道路の幅員が明らかに広いものであるときは、その前方に出る前に必ず一時停止しなければならない。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問2. 徐行に関する記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

1. 歩道と車道の区別のない道路を通行する場合その他の場合において、歩行者の側方通過時に安全な間隔が取れないときは徐行して進行する。
2. 勾配の急な上り坂や下り坂では徐行して進行する。
3. 優先道路を通行している場合でも、左右の見通しがきかない交差点では徐行して進行する。
4. 道路外の施設又は場所に入出入りするためやむを得ず歩道等を横断するときは、歩道等に入る直前から徐行して、歩行者の通行を妨げないようにする。

問3. 運転免許に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。
解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

ア 第一種の運転免許には、大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許、大型特殊免許、小型特殊免許、大型二輪免許、普通二輪免許、原付免許、けん引免許がある。

イ 普通免許を取得して1年を経過しなければ準中型免許は取得できない。

ウ 準中型免許は20歳に満たない者は取得できない。

エ 準中型免許を取得すれば、最大積載量5トン未満までのトラックを運転できる。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問4. 道路交通法に定める駐車を禁止する場所（公安委員会の定めるところにより警察署長の許可を受けたときを除く。）について次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

ア 車両は、道路工事が行われている場合における当該工事区域の側端から5メートル以内の道路の部分において、駐車してはならない。

イ 車両は、人の乗降、貨物の積卸し、駐車又は自動車の格納若しくは修理のため道路外に設けられた施設又は場所の道路に接する自動車用の出入口から5メートル以内の道路の部分においては、駐車してはならない。

ウ 車両は、公安委員会が交通がひんぱんでないと認めて指定した区域を除き、法令の規定により駐車する場合に当該車両の右側の道路上に5メートル（道路標識等により距離が指定されているときは、その距離）以上の余地がないこととなる場所においては、駐車してはならない。

エ 車両は、消防用機械器具の置場若しくは消防用防火水槽の側端又はこれらの道路に接する出入口から5メートル以内の道路の部分においては、駐車してはならない。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

- 問5. 道路交通法でいう「本線車道」とは、車両が道路の定められた部分を通行すべきことが道路標示により示されている場合における当該道路標示により示されている道路の部分という。
- 問6. 車両等に積載している物が道路に転落し、又は飛散したときは、必ず道路管理者に通報するものとし、当該道路管理者からの指示があるまでは、転落し、又は飛散した物を除去してはならない。
- 問7. 車両（軽車両を除く）の運転者は、当該車両について政令で定める乗車人員又は積載物の重量、大きさ若しくは積載の方法の制限を超えて乗車させ、又は積載をして車両を運転してはならない。
- 問8. 車両は、道路標識等により追越しが禁止されている道路の部分においても、前方を進行している原動機付自転車は追い越すことができる。
- 問9. 車両横断禁止の標識のある場所でも、道路の右側部分にある駐車場などの施設に入るために右折する場合は道路を横断することができる。
- 問10. 車両等の運転者は高齢の歩行者でその通行に支障のあるものが通行しているときは、一時停止し、又は徐行して、その通行を妨げないようにしなければならない。
- 問11. 中型免許で大型自動車を運転した場合は、大型自動車等無資格運転となる。

- 問12. 自動車の運転者は酒気を帯びて運転してはならないが、軽車両（自転車等）の場合はその限りではなく、禁止の規定はない。
- 問13. 走行中に携帯電話やスマートフォンなどを手で保持した状態で通話をするとは禁止されているが、メールの送受信のために画面を注視することは禁止されていない。
- 問14. 自動車は歩道又は路側帯と車道との区別がある道路では、路側帯に歩行者がいない場合でも、路側帯にはみ出して通行することができない。
- 問15. 呼気1リットルにつき0.15ミリグラム以上の酒気帯び運転は処罰の対象となるが、それに達しない場合であっても、酒気を帯びて運転すれば違反となる。
- 問16. 助手席同乗者が不用意にドアを開けたために交通の危険が生じた場合は、運転者には責任はない。
- 問17. 道路交通法でいう「放置車両」とは、違法駐車と認められる場合における車両であって、その運転者がこれを離れて直ちに運転することができない状態にあるものをいう。
- 問18. 仮免許練習標識をつけた車に対しては、幅寄せや割り込みを禁止する保護義務はない。
- 問19. 道路交通法でいう「進行妨害」とは、車両等が、進行を継続し、又は始めた場合においては危険を防止するため他の車両等がその速度又は方向を急に変更しなければならないこととなるおそれがあるときに、その進行を継続し、又は始めることをいう。
- 問20. 車両等は、環状交差点に入ろうとするときは、徐行しなければならない。

- 問21. 車両は、火災報知器から5メートル以内の道路の部分においては、駐車してはならない。
- 問22. 正当な理由がないのに、著しく他人に迷惑を及ぼすこととなる騒音を生じさせるような方法で、急発進や急加速、空ぶかしをしてはならない。
- 問23. 高速自動車国道等における車間距離の保持の規定に違反となるような行為をした場合における罰則は、3月以下の懲役又は5万円以下の罰金である。
- 問24. 標識等で速度が指定されていない自動車専用道路で、けん引するための構造及び装置を有する自動車でけん引されるための構造及び装置を有する車両をけん引する場合の最高速度は時速80キロである。
- 問25. 交差点又はその附近において、緊急自動車が接近してきたときは、車両（緊急自動車を除く。）は、交差点を避け、かつ、道路の左側（一方通行となっている道路においてその左側によることが緊急自動車の通行を妨げることとなる場合にあっては、道路の右側）に寄って一時停止しなければならない。
- 問26. 道路交通法でいう「徐行」とは、車両等が直ちに停止することができるような速度で進行することをいう。
- 問27. 無免許運転を行うおそれのある者に対し自動車を提供し、提供を受けた者が無免許運転を行った場合、無免許運転を行った者は罰せられるが、自動車を提供した者は罰せられない。
- 問28. 見とおしのきかない上り坂の頂上付近では、「警笛鳴らせ」の標識が無い場合でも必ず警音器を鳴らさなければならない。

- 問29. 走行中の車両から弁当殻や紙屑を投げ捨てるのはマナーの悪い行為ではあるが、道路交通法の禁止行為ではない。
- 問30. バス停でバスが発進するため進路変更の合図をしたときは、後方の車は急ブレーキや急ハンドルで回避しなければならない場合を除いて、バスの進路変更を妨げてはならない。
- 問31. 夜間の高速自動車国道等で故障により駐停車するときは、停止表示器材を置けば、非常点滅灯火などはつけなくても良い。
- 問32. 故障車の車輪を上げないでロープ等でけん引する場合、けん引する車と故障車の間を5メートル以内に保たなければならない。
- 問33. 右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の中央に寄り、かつ、交差点の中心の直近の内側を速やかに進行しなければならない。
- 問34. 転回しようとするときは、その行為をしようとするときの3秒前のときに合図をする。
- 問35. 信号機が赤色の点滅信号を表示している場合は、車両は他の交通に注意して進行する。
- 問36. 自動車は夜間に走行するときは、前照灯、車幅灯、尾灯、番号灯及び室内照明灯をつけなければならない。
- 問37. 車両通行帯の設けられていないトンネル内は追い越してはならない。
- 問38. 積載物は、自動車の車体の左右から自動車の幅の20分の1を超えてはみださないこと。

問39. 過労、病気、薬物の影響等により、正常な運転ができないおそれがある状態では車両等を運転してはならない。

問40. 警察官が、信号機が表示する信号と異なった意味の手信号をしている場合は、警察官の手信号に従わなければならない。

Ⅱ 構造機能（20問）

【4 肢択一式問題】

問41. 道路運送車両の保安基準及びその細目を定める告示についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○をなさい。

1. 自動車の車体後面には、最大積載量（タンク自動車にあっては、最大積載量、最大積載容積及び積載物品名）を表示しなければならない。
2. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって車両総重量が7トン以上のものの後面には、所定の後部反射器を備えるほか、反射光の色、明るさ等に関し告示で定める基準に適合する大型後部反射器を備えなければならない。
3. 貨物の運送の用に供する普通自動車及び車両総重量が8トン以上の普通自動車（乗車定員11人以上の自動車及びその形状が乗車定員11人以上の自動車の形状に類する自動車を除く。）の両側面には、堅ろうであり、かつ、歩行者、自転車の乗車人員等が当該自動車の後車輪へ巻き込まれることを有効に防止することができるものとして、強度、形状等に関し告示で定める基準に適合する巻込防止装置を備えなければならない。ただし、告示で定める構造の自動車にあっては、この限りではない。
4. 自動車に備えなければならない後写鏡は、取付部付近の自動車の最外側より突出している部分の最下部が地上2メートル以下のものは、当該部分が歩行者等に接触した場合に衝撃を緩衝できる構造でなければならない。

問42. 道路運送車両の保安基準に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

ア 自動車の高さは、告示で定める方法により測定した場合において、3.8メートルを超えてはならない。

イ 自動車の長さ（セミトレーラにあっては、連結装置中心から当該セミトレーラの後端までの水平距離）は、10メートル（セミトレーラのうち告示で定めるものは13メートル）を超えてはならない。

ウ セミトレーラ以外の自動車で、最遠軸距が5.5メートル未満の自動車の車両総重量は、25トンを超えてはならない。

エ 隣り合う車軸にかかる荷重の和は、その軸距が1.8メートル以上である場合にあっては20トンを超えてはならない。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問43. 事業用自動車の日常点検に関するア～エの点検内容のうち、走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りるものはいくつあるか。
解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

ア 冷却水の量が適当であること。

イ ブレーキの液量が適当であること。

ウ 駐車ブレーキ・レバーの引きしろが適当であること。

エ タイヤの溝の深さが十分であること。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問44. 前照灯に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。
解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

ア 走行用前照灯は、そのすべてを照射したときには、夜間にその前方80メートルの距離にある交通上の障害物を確認出来る性能を有すること。

イ 走行用前照灯の灯光の色は、黄色であること。

ウ すれ違い用前照灯は、そのすべてを同時に照射したときに、夜間にその前方50メートルの距離にある交通上の障害物を確認出来る性能を有すること。

エ すれ違い用前照灯の直射光又は反射光は、当該自動車及び他の自動車の運転操作を妨げるものでないこと。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

【○×正誤式問題】

次の問45から問60までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

- 問45. 運行記録計は、24時間以上の継続した時間内における事故発生時の瞬間速度及びすべての2時刻間における走行距離を自動的に記録できる構造でなければならない。
- 問46. 自動車の最小回転半径は、最外側のわだちについて12メートル以下でなければならない。
- 問47. 自動車は、運行中ばい煙、悪臭のあるガス又は有害なガスを多量に発散しないものでなければならない。
- 問48. ホイールの3ヶ月ごとの点検では、ホイール・ナット及びホイール・ボルトが緩んでいないか点検しなければならない。
- 問49. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上のものの原動機には、自動車が時速100キロメートルを超えて走行しないよう燃料の供給を調整し、かつ、自動車の速度の制御を円滑に行うことができるものとして、告示で定める基準に適合する速度抑制装置を備えなければならない。
- 問50. 貨物自動車運送事業輸送安全規則において、車両総重量7トン以上又は最大積載量4トン以上の事業用自動車は、運行記録計を備えなければならない。
- 問51. 尾灯は、夜間にその後方300メートルの距離から点灯を確認できるものであり、かつ、その照射光線は、他の交通を妨げないものでなければならない。

- 問52. 停止表示器材による反射光の色は、橙色であり、かつ、当該停止表示器材による蛍光の色は、赤色又は橙色であること。
- 問53. 自動車運送事業の用に供する自動車の定期点検は、毎年、3月と12月の2回実施すればよい。
- 問54. 自動車に備える非常点滅表示灯は、すべてが同時に作動する構造でなければならない。
- 問55. 停止表示器材は、夜間200メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものであること。
- 問56. タイヤには、残り溝が1.6ミリメートルになると現れる「スリップサイン」が設けられている。
- 問57. 自動車の軸重は、10トン（けん引自動車のうち告示で定めるものにあつては、11.5トン）を超えてはならない。
- 問58. タイヤの亀裂や損傷の有無の点検は、走行距離や運行時の状態から判断した適切な時期に行えばよい。
- 問59. 自動車（被けん引自動車を除く。）には、警音器を備えなければならない。
- 問60. 自動車は、自動車検査証を備え付けるか、又は国土交通省令で定めるところにより検査標章を表示しなければ運行の用に供してはならない。

Ⅲ 運転常識（20問）

【4 肢択一式問題】

問61. 夜間の運転に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

1. 夜間は速度感が鈍り、速度超過になりがちである。
2. 走行中に、自車のライトと対向車のライトで、道路の中央付近の歩行者が見えなくなることがある。
3. 対向車のライトがまぶしいときは、視点をやや右前方に移して目がくらまないようにする。
4. 視線は出来るだけ先のほうへ向け、少しでも早く前方の障害物を発見する。

問62. 車の停止距離等に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。 解答用紙の該当する番号の欄に○を付けなさい。

ア 停止距離とは、空走距離と制動距離を合わせた距離をいう。

イ 制動距離とは、運転者が危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に車が走る距離をいう。

ウ 路面が濡れていると、制動距離が短くなる。

エ 運転者が疲れていると、空走距離が長くなる。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問63. 坂道・カーブの走行に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

ア 下り坂では低速のギアを用い、エンジnbrakeキを活用する。

イ 近くに待避所のない坂道ですれ違いが難しいときは、上り坂での発進が難しいため、下りの車が上りの車に道を譲る。

ウ カーブを走行するときは、カーブに入ってから十分にスピードを落とす。

エ カーブを通行するとき、車の内輪差のため、後車輪が路肩からはみ出す恐れがあるので注意する。

1. 一つ
2. 二つ
3. 三つ
4. 四つ

問64. スピードと運転に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

1. 車の制動距離は、スピードの2乗に比例して長くなる。
2. スピードが2倍になれば、カーブで働く遠心力も2倍になる。
3. 高速で走行すると視力が低下して、近くのものはぼやけて見える。
4. 夜間、高速で走っていると速度感が鈍り、速度を出し過ぎる傾向がある。

【○×正誤式問題】

次の問65から問80までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙に○を、誤っていると思うものについては解答用紙に×を付けなさい。

- 問65. 踏切内では、変速しないで発進したときの低速ギアのままで進行し、対向車に注意しながら、できるだけ左端を通るようにする。
- 問66. 車間距離が短くなると、無駄な加速・減速の機会が多くなり、燃費が悪化する。
- 問67. 前の車に続いて踏切を通過するときは、一時停止をしなくてもよい。
- 問68. 動いている物や動きながら物を見るとき視力を動体視力というが、一般に動体視力は静止視力よりも低下する。
- 問69. 40キロメートル毎時で走行中の自動車の2秒間の走行距離は、約22メートルである。
- 問70. 後輪が横滑りしたときは、まずアクセルを緩め、ハンドルで車の向きを立て直すようにするが、この場合、後輪が右に滑った場合はハンドルを左、左に滑った場合は右に切るようにする。
- 問71. 点呼は対面で行うのが原則で、運行上やむを得ない場合に限り電話その他の方法で行うことができるが、車庫と営業所が離れている場合や早朝・深夜等において点呼執行者が営業所に出勤していない場合などは「運行上やむを得ない場合」に該当する。
- 問72. 荷物の位置が極端に荷台の後方又は片側に偏る積載は、「偏荷重を生じる積載方法」の一例である。

- 問73. 一般的に車両全長が長い大型車が右左折する場合、ハンドルを一気にいっぱい切ることにより、その間における車体後部のオーバーハング部分（最後部の車軸中心から車体の後面までの水平距離）の対向車線等へのはみ出し量が少なくなり、対向車などに接触する事故を防ぐことが出来る。
- 問74. 雨で濡れていない路面であってもタイヤの空気圧が高すぎると高速走行時にハイドロプレーニング現象が発生しやすくなる。
- 問75. 1日の拘束時間が15時間を超える回数は、1週間につき3回が限度である。
- 問76. 連続運転時間は4時間までであり、それを超えて運転する場合には、1回が5分以上、合計が30分以上の運転の中断（休憩等）が必要である。
- 問77. クリープ現象とは、フット・ブレーキを使い過ぎると、ブレーキ・ドラムやブレーキ・ライニングが摩擦のため過熱することにより、ドラムとライニングの間の摩擦力が低下し、ブレーキの効きが悪くなることをいう。
- 問78. 集中豪雨の時は、ガード下などのアンダーパスやすりばち状の道路は冠水のおそれが高いため避けたほうがよい。
- 問79. 霧が発生したときは、霧灯があるときは霧灯を、霧灯がないときは前照灯を早目に点灯し、センターラインやガードレール、前車の尾灯を目安に速度を落として走行する。
- 問80. 指差し呼称は、運転者の錯覚、誤判断、誤操作等を防止するための手段であり、信号や標識などを指で差し、その対象が持つ名称や状態を声に出して確認することをいい、安全確認に重要な運転者の意識レベルを高めるなど交通事故防止対策に有効な手段の一つとして活用されている。